



真言宗大覚寺派
万福寺住職

福島 誠浄僧正

講師

令和元年
11月19日[火]

午後1時30分 開場
午後2時 開演

日時

場所

池田総合体育館
サブアリーナ

事務局：極楽寺
☎(0883)82-2634

お問い合わせ先

演題

人はなぜ葬儀・告別式をするのか

三好仏教会講演会

密教教化賞受賞

中僧正 福島 誠浄



徳島県徳島市吉野本町五十二
真言宗大覚寺派 万福寺 住職

昭和十三年三月十五日生
師は高野山大学に学ばれ卒業後、本宗教師となられて以来、徳島県立高等学校にて教鞭を執る傍ら、大覚寺派徳島教区長として県下寺院の宗教活動の拡大発展、本派同和推進委員長として長きにわたり人権問題に取り組むなど大きな功績をあげられました。何より心経写経の根本道場たる大覚寺の末寺住職として、地元徳島で「写経と法話の会」を主宰、その草分け的存在として、電話による説法「テレホン法話万福寺」並びに「なんでも相談寺」を開設。たぬき和尚のニックネームで檀信徒や市民から親しまれ、現在も布教、講演など教化活動を鋭意継続しておられます。一方で俳句にも造詣が深く、なると俳句会の代表であられ俳句誌「なると」を主宰されております。

また、台湾との交流深く、台湾花蓮県慶修院（旧真言宗高野山布教所）の落慶導師を勤められ、その縁で日本の俳人として初めて台湾に句碑を建立。台湾、中国からの留学生、研修生の受入れにも尽力されています。

その間、布教の現場で培った様々な実経験から「仏さまの物指し」「しあわせまんたら」そして最新著「極楽行きのパスポート」など、多数の著作を世に送り出され、特に青年教師など後進の指導育成のために惜しみなくその知識を披露される等、宗内外において活動しておられます。

【学歴】

昭和三十五年三月 高野山大学卒業

【僧歴】

昭和二十九年三月 得度

昭和三十八年五月 万福寺住職拝命

昭和六十一年十月 中僧正補任

【宗内履歴】

真言宗大覚寺派徳島教区教区長 平成六年退任

真言宗大覚寺派同和推進委員長 平成十九年退任

真言宗大覚寺派徳島教区布教団長

真言宗大覚寺派徳島教区顧問

徳島県仏教会理事

徳島市仏教会会長

【宗外履歴】

民生児童委員

社会福祉法人白寿会理事、評議員

徳島県社会同和教育指導員

徳島市同和教育指導員

徳島大学工学部非常勤講師

徳島県シルバード大学校講師

徳島市成人大学講師

徳島新聞カルチャーセンター講師

NHK文化センター講師

徳島健康福祉専門学校非常勤講師

徳島県警察学校非常勤講師

徳島新聞「人生相談」担当

なると俳句会代表

俳句誌「なると」主宰

徳島ベンクラブ理事

徳島新聞徳島俳壇選者

毎日新聞徳島俳壇選者

【職歴】

徳島県立高等学校教員 昭和五十七年退職

【布教活動】

写経と法話の会（昭和三十八年より毎月一回）

テレホン法話万福寺

なんでも相談寺（昭和五十八年より千七百回実施、四国で初めての試み）

各地での講演活動

【著作】

布教関係

「仏さまの物指し」「しあわせまんたら」「たぬき和尚の人生相談」

「ふれあいまんたら」「まあるく生きる」「極楽行きのパスポート」

俳句関係

「狸の燭台」「続狸の燭台」「台湾優遊」「青春」「沙門」「福島せいぎ集」

「天蓋」「虎の陶枕」「遊戯」「台湾抄」「古玩愛蔵」

【受賞】

徳島県警察本部長表彰

徳島出版文化賞特別賞

文学の森賞

第一回台湾俳句文学賞

主催 三好仏教会（順不同）

集福寺 長善寺 福性寺 興聖寺 林下寺 長好寺 瀧楽寺 長楽寺 簀藏寺 不動院 密厳寺 蓮華寺 長福寺 光明寺 八幡寺 雲辺寺 西福寺 浄光寺 徳泉寺 福成寺 光泉寺 正賢寺 十輪寺 青蓮寺 地福寺 願成寺 持性院 安楽寺 春音寺 春色寺 舞明寺 円明寺 教法寺 極楽寺